

本資料は、米国アッヴィ社が2026年2月4日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2026年2月10日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2026年2月10日

アッヴィ、2025年第4四半期および通期の業績を発表

- 2025年通期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、1.3%減の2.36ドルでした。調整後希薄化後EPSは1.2%減の10.00ドルでした。これらには、2025年に取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり2.76ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 2025年通期の売上高は、報告ベースで8.6%増、営業ベースで8.5%増の611億6,000万ドルでした。
- 免疫ロジ(免疫)領域の2025年通期の売上高は、報告ベースで14.0%増、営業ベースで13.9%増の304億600万ドルでした。スキリージ®の売上高は、175億6,200万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、83億400万ドルでした。ヒュミラ®の売上高は、45億4,000万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の2025年通期の売上高は、報告ベースで19.6%増、営業ベースで19.4%増の107億6,700万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、36億2,100万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、37億6,900万ドルでした。UbrelyvおよびQulipta(日本では未承認・未発売)の売上高は合わせて、23億700万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の2025年通期の売上高は、報告ベースで1.5%増、営業ベースで1.4%増の66億5,500万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は、28億6,900万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、27億9,200万ドルでした。Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、6億9,000万ドルでした。
- エステティクス(美容医療)領域の2025年通期の売上高は、報告ベースで6.1%減、営業ベースで5.9%減の48億6,000万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、26億200万ドルでした。ジュビダームの売上高は、9億9,300万ドルでした。
- 2025年第4四半期のGAAPベースの希薄化後EPSは1.02ドルでした。調整後希薄化後EPSは2.71ドルでした。これらには、2025年第4四半期に取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.71ドルのマイナスの影響が含まれます。
- 2025年第4四半期の売上高は、報告ベースで10.0%増、営業ベースで9.5%増の166億1,800万ドルでした。
- 2026年における調整後希薄化後EPSのレンジを、14.37ドル~14.57ドルとしました。これには、仕掛研究開発費およびマイルストーン支払によるマイナスの影響は含まれません。



米国イリノイ州ノースシカゴ、2026年2月4日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2025年第4四半期および通期(2025年12月31日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼CEOのロバート・A・マイケルは、次のように述べています。「2025年はアッヴィにとって、米国におけるヒュミラの特許満了からわずか通期2年目でありながら、過去最高の売上高を達成し、当社の多様な成長プラットフォームの強さを改めて示す、極めて好調な1年となりました。また、患者さんに届けるべく有望な新たな治療法の開発を進展させるとともに、戦略的投資によりパイプラインの幅と深みを一段と強化しました。当社の強固な事業基盤に基づき、2026年も力強い成長が見込まれます。この勢いとイノベーションへの投資が相まって、アッヴィは長期的な成功に向けた体制を確かなものにしていきます」

2025年第4四半期の業績

- 売上高は、報告ベースで10.0%増、営業ベースで9.5%増の166億1,800万ドルでした。
- イムノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで18.3%増、営業ベースで17.7%増の86億2,600万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで32.5%増、営業ベースで31.9%増の50億600万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで29.5%増、営業ベースで28.6%増の23億7,400万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで25.9%減、営業ベースで26.1%減の12億4,600万ドルでした。
- ニューロサイエンス(精神・神経疾患)領域の売上高は、報告ベースで17.9%増、営業ベースで17.3%増の29億6,100万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、10.5%増の10億2,200万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで13.4%増、営業ベースで13.0%増の9億9,000万ドルでした。
 - Ubrelyvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、12.0%増の3億3,900万ドルでした。
 - Qulipta(日本で未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで42.6%増、営業ベースで41.8%増の2億8,800万ドルでした。
- オンコロジー(がん)領域の売上高は、報告ベースで1.5%減、営業ベースで2.5%減の16億6,400万ドルでした。
 - イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は20.8%減の6億7,100万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで8.6%増、営業ベースで6.4%増の7億1,000万ドルでした。
 - Elahere(日本では未承認・未発売)の売上高は、報告ベースで22.6%増、営業ベースで21.3%増の1億8,200万ドルでした。
- エステティクス(美容医療)領域の売上高は、報告ベースで0.9%減、営業ベースで1.2%減の12億8,600万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで4.2%増、営業ベースで3.8%増の、7億1,700万ドルでした。



- ジュビダームの売上高は、報告ベースで 10.7%減、営業ベースで 10.8%減の 2 億 4,900 万ドルでした。
- GAAP ベースで、売上総利益率は 72.6%でした。調整後売上総利益率は 83.6%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、23.4%でした。調整後の売上高に占める販売費および一般管理費の割合は 22.3%でした。
- GAAP ベースで、売上高に占める研究開発費の割合は、15.5%でした。調整後の研究開発費の売上高に占める割合は、15.4%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は 7.6%でした。
- GAAP ベースで、営業利益率は 27.3%でした。調整後営業利益率は 38.3%でした。
- 純支払利息は 6 億 5,500 万ドルでした。
- GAAP ベースで、税率は 32.0%でした。調整後の税率は、18.3%でした。
- GAAP ベースの希薄化後 EPS は、1.02ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後 EPS は、2.71ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した 1 株当たり 0.71ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意：「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

<https://news.abbvie.com/2026-02-04-AbbVie-Reports-Full-Year-and-Fourth-Quarter-2025-Financial-Results>

アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、さらに美容医療関連のアラガン・エステティックスポーツフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、

www.abbvie.com をご覧ください。 [LinkedIn](#), [Facebook](#), [Instagram](#), [X](#) や [YouTube](#) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions and uses of future or conditional verbs, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those expressed or implied in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, changes to laws and regulations applicable to our industry, the impact of global macroeconomic factors, such as economic downturns or uncertainty, international conflict, trade disputes and tariffs, and other uncertainties and risks associated with global business operations. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors



that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2024 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation, and specifically declines, to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.